

小学校 6年 道徳「15・手品師」A—2正直・誠実

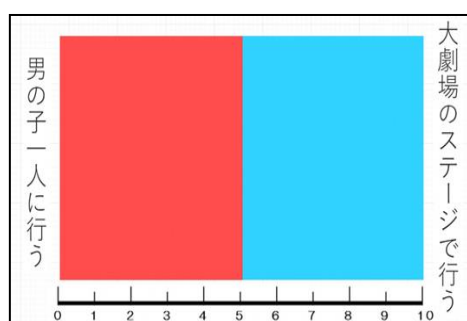
資料 「きみがいちばんひかるとき」（光村図書）

授業のねらい

大舞台での活躍と幼い子どもと交わした約束との間で迷った手品師の姿を通して、「誠実に生きる」とはどういうことかを考えさせ、自分自身に誠実でいようとする心情を育てる。

ICT活用の工夫

- オクリンクと電子黒板を活用し、児童全員の考えを2色のメーターで表す。オクリンクの LIVE モニタリング機能を活用し、教員用の画面を電子黒板に投影する学級全員の考えを共有する。
- 友達と意見を交換する中で、自分の考えが変わった場合は、いつでもメーターを変更してよい。
- 学習の初めと終わりの学級全体のメーター一覧をスクリーンショットで保存しておく（もしくは、提出 BOX に提出させる）ことで、授業での児童の変化を読み取ることができる。



【学級全体のメーター一覧】

※ICT サポーターよりいただいた、『2022 年春版活用事例 BOOK』内に紹介されていた、こころメーター（札幌市立澄川南小学校の池亀美和子教諭）の実践事例紹介を参考に授業を構成しました。

児童の様子

- 自分の考えの割合を全体に示すことにより、児童が何故その割合にしたのかという根拠を自問する子が多く、普通の授業よりも多くの児童が自分の考えを言語化することができた。
- 自分と違う考えの児童がだれであるか分かりやすく、友達に考えを積極的に尋ねに行く児童もいた。

成果

- LIVE モニタリング上のメーターの変化を教師が読み取ることで、リアルタイムで児童の考えを取り上げることができた。
- 発言を得意としない児童が、普通の授業よりも積極的に考えを伝えようとする姿が見られた。

課題

- 様々な意見を児童が積極的に発言したが故に、授業時間が延びてしまった。教師のタイムマネジメントが必要である。